

*データのご利用にあたって

- ・データポリシー JAMSTEC
- ・データ責任者 情報管理部署
- ・データの利用制限 データ利用の制限については 注意事項 をご参照ください。
- ・引用方法 データの引用については 注意事項 をご参照ください。

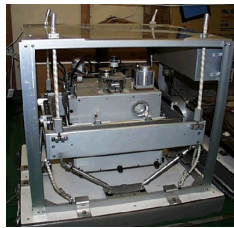
品質

DMO-Processed

観測機器

機器名

船上重力計



可搬型相対重力計（- MR11-05 Leg2）



概要

本データは、船上重力計で計測した相対重力値を、出入港する港の絶対重力値を用いて絶対重力値に変換し、フリーエア異常値を算出したものである。

絶対重力値への変換前にドリフト補正とエトベス補正を行っているほか、一定の基準で信頼性の低いデータを除去する品質管理（下記参照）を行っている。なお、港の絶対重力値は、国土地理院が設置している日本重力基準網の重力基準点における絶対重力値を参照して得られた値である。

計測装置

1) 船上重力計システム

システムはジャイロ安定台に取り付けた重力センサ部とデータ処理・収録部で構成されている。

- メーカー： LaCoste & Romberg
- 型式： S-116
- 計測範囲： 12,000 mGal
- 測定精度： 1.0 mGal
- ドリフト量： < 3.0mGal/month
- 設置場所： 重力計室
- 参考資料： 「Model "S" Air-Sea Dynamic Gravity Meter System II」 INSTRUCTION MANUAL LaCoste and Romberg Gravity Meters, Inc. 2004

2) 可搬型相対重力計

可搬型相対重力計は、データ処理・収録部と真空恒温槽の中に収納された重力センサ部で構成されている。国土地理院が設置している日本重力基準網の重力基準点の絶対重力値を参照して、着岸中に港の絶対重力値を求めるために使用される。

- メーカー： SCINTREX
- 型式： CG-3M
- 計測範囲： 7,000 mGal
- 標準偏差： 0.005 mGal
- ドリフト量： < 0.02 mGal/day
- 参考資料： 「CG-3M AUTOGRAV AUTOMATED GRAVITY METER OPERATOR MANUAL」, SCINTREX

岸壁における絶対重力値

日時 (UTC)	2006/7/31 20:00	2006/9/29 3:30
港	SEKINEHAMA	SEKINEHAMA
岸壁絶対重力値 (mGal)	980371.95	980371.95
海面高 (cm)	261	246
喫水 (cm)	623	615
センサ位置絶対重力値 (mGal)	980372.96	980372.9
船上重力計重力値 (mGal)	12645.4	12644.1

絶対重力値高度変換式

$$Ag = Pg + \beta * HS/100 + (HD - HSG)/100 * (\beta - 4\pi * k * \rho w)$$

A_g : 船上重力計センサ位置の絶対重力値 (mGal)
 P_g : 可搬型相対重力計で求めた接岸岸壁 (HSを計測した場所) の絶対重力値 (mGal)
 HSG : 船底から船上重力計の高さ (「みらい」の場合530cm)
 HS : 海面高 (cm)
 HD : 喫水 (cm)
 β : フリーエア勾配 0.3086(mGal/m)
 k : ニュートンの重力常数
 ρ_w : 海水密度
 $4\pi * k * \rho_w = 0.0864$



データ処理

本船上重力計システムは、フィルター処理により、重力データの出力が120秒遅延する。重力データとナビゲーションデータの時間のずれを調整した後、以下の処理を行う。

1) ドリフト量補正

$$D = ((Vg - Vgs) - (Ag - Ags)) / (Te - Ts)$$

D : ドリフト値 (mGal/day)

Vgs : 観測開始時の船上重力計値 (mGal)

Vg : 観測終了時の船上重力計値 (mGal)

Ags : 観測開始時のセンサ位置絶対重力値 (mGal)

Ag : 観測終了時のセンサ位置絶対重力値 (mGal)

Ts : 観測開始日時 (day)

Te : 観測終了日時 (day)

2) エトベス補正

$$E = 7.503 * S * \cos(\phi) * \sin(\alpha) + 0.004154 * S^2$$

E : エトベス補正值

S : 船の対地速度 (knot)

ϕ : 緯度

α : 船の進路方向(北を0度として、時計回りに+)

参考資料 : Blakely, R.J., Potential theory in gravity & magnetic applications, Cambridge University Press, New York, 441pp, 1995

*ナビゲーションデータ S , ϕ 及び α は下記のいずれかにあてはまるデータを除去した後、前後2分間の平均値をとる。なお、平均区間内のデータの50%以上が不良データである場合は欠測とした。

- ・時間が逆転する場合、同じ時間が続く場合
- ・対地速度20knot以上
- ・進路方向0~360° 以外

3) 絶対重力値の算出

$$G = Ags + (Vg - Vgs) - D * (T - Ts) + E - H * (\beta - 4\pi * k * \rho_w)$$

G : 海水面での絶対重力値 (mGal)

Ags : 観測開始時のセンサ位置絶対重力値 (mGal)

Vgs : 観測開始時の船上重力計値 (mGal)

Vg : 観測時の船上重力計値 (mGal)

D : ドリフト値 (mGal/day)

Ts : 観測開始日時 (day)

T : 観測日時 (day)

E : エトベス補正值 (mGal)

H : 海水面からセンサまでの距離 (m)

β : フリーエア勾配 0.3086 (mGal/m)

k : ニュートンの重力常数

ρ_w : 海水密度
 $4\pi \cdot k \cdot \rho_w = 0.0864$

4) フリーエア－異常値の算出

$$G_f = G - \gamma + \delta$$

G_f : フリーエア－異常値 (mGal)

G : 海水面での絶対重力値 (mGal)

γ : 正規重力 (mGal)

* 測地基準系1980に基づく正規重力式を使用した。

$$\gamma = 978032.67715(1 + 0.0052790414 \sin^2 \phi + 0.0000232718 \sin^4 \phi + 0.0000001262 \sin^6 \phi + 0.0000000007 \sin^8 \phi)$$

δ : 海水面での大気補正值

$$\delta = 0.87 - 0.0000965 \cdot 0 \text{ (mGal)}$$

5) データの出力

時間 (UTC)

緯度 (degree)

経度 (degree)

海水面での絶対重力値 (mGal)

フリーエア－異常値 (mGal)

品質管理

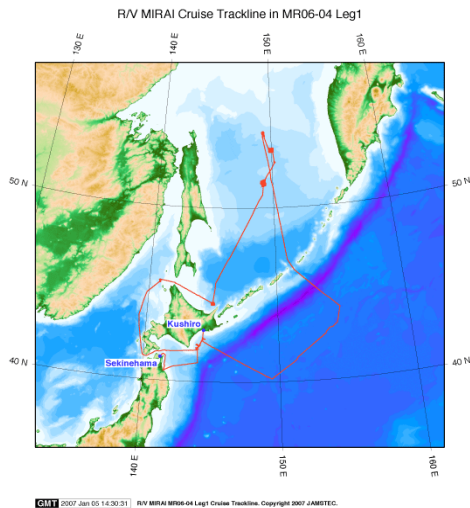
下記のいずれかに該当するデータを信頼性の低いデータとして除去した。

- ・ フリーエア－異常値の水平勾配が10mGal/km以上
- ・ エトベス補正值の変動が3mGal/min以上
- ・ 対地速度3knot以下

その他

- 1) データファイルの命名規約：クルーズID_corr.grv
- 2) データ間隔：10秒
- 3) 位置データの測地系：WGS84
- 4) Raw Dataデータが必要な場合は「dmo@jamstec.go.jp」よりご連絡ください。
- 5) 「みらい」海上重力データの一部において、絶対重力値への変換が正常に処理されていないことを確認しました。本航海でも不適切な処理がされておりましたが、2024年3月に正しい港の絶対重力値を用いて再処理したデータに差替えました。

関連情報



MR06-04 Leg1

船舶名： みらい
期間： 2006/07/31 - 2006/08/19
主席/首席： 原田 尚美（海洋研究開発機構）
プロジェクト名： [古海洋環境研究]
課題名： エアロゾル、雲の立体分布と光学特性の観測

オホーツク海・日本海北部における海氷の拡大・縮小域の空間的・定量的復元と寒冷気候へのフィードバック効果に関する研究

オホーツク海を横切る熱・塩・体積南北輸送の直接観測

オホーツク海高気圧に伴う海洋上の下層雲に関する観測的研究

オホーツク海高気圧形成に関わる、雲とエアロゾルの役割解明

過去2万年間の十勝沖における底生有孔虫化石群集に基づく古海洋環境復元の研究

海上気象連続観測による広域データベースの作成

海洋における降水の安定同位体観測

海洋生態系と地球気候変化との相互作用に関する研究

海洋地球物理観測データの標準化及び海洋底ダイナミクスへの応用に関する研究

寒冷海洋環境に生息する微生物の鉄と硫黄の代謝活動の記録：安定同位体比組成による復元の試み

高緯度域における古地磁気・環境磁気研究（科研費研究課題「古気候変動・地球軌道要素変動に起因する古地磁気変動の研究」を一部含む）

高緯度縁海域における鉛直水塊構造復元のための古海洋指標の開発～放散虫および有孔虫の各層プランクトン調査

太陽放射観測による海洋大気エアロゾルの空間分布の物理的特性の導出

放射壊変起源同位体トレーサーを利用した北太平洋高緯度域および北極域の海洋堆積物碎屑性成分の起源解明および古環境復元

北太平洋高緯度域および北極海における現世および古海洋における物質循環の解明

北太平洋高緯度域における堆積物中間隙水の溶存有機物組成や硫黄同位体組成から見た堆積環境と初期統成変化の解明

北太平洋高緯度海域および北極海における浮遊性有孔虫類の遺伝的多様性と縁海を中心とした第四紀古海洋環境変動との相関に関する研究

北部北太平洋における霧の化学的特性と渦相関法による大気・海洋間の物質フラックスの直接測定

冷湧水メタンブルーム中微生物群集の解明

北太平洋縁辺域の古環境変遷観察と現世植物プランクトン群集観察

過去5万年間における100-1000年スケールでの親潮水温度・塩分と周辺陸域の気温・降水量変動との関係

縁辺海・北太平洋・北極海における物質循環の生物地球化学的研究

日本海の深層水および海水形成史に基づく第四紀東アジア冬季モンスーン変動の解明に関する研究

北太平洋高緯度域および北極域における海洋底泥中微生物相とバイオマーカー指標との関連解析

渦相関法による二酸化炭素フラックス測定

北極海周辺域における現世生物群集の解析と氷期海洋環境の解明

後期第四紀の北極海とベーリング海における微化石分析と地磁気特性の対比

北太平洋高緯度域および北極海における陸起源炭素系物質の流入フラックス変動の解明研究

北太平洋高緯度域における水温・塩分の変動（Argo計画）

Gravity Corrected フォーマット

No.	カラム	項目	表示書式	単位	備考
1	1 - 8	日付	i4,i2,i2		YYYYMMDD (UTC)
2	10 - 15	時刻	i2,i2,i2		hhmmss (UTC)
3	17 -25	緯度	f9.5	度	南緯は-マイナスで表記
4	27 -36	経度	f10.5	度	西経は-マイナスで表記
5	38 -45	絶対重力値	f8.1	mGal	
6	48 -53	フリーエア異常値	f6.1	mGal	